

製品名: CKR-7 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab08875

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	CCR7
別名	CCR7; CMKBR7; EBI1; EVI1; C-C chemokine receptor type 7; C-C CKR-7; CC-CKR-7; CCR-7; BLR2; CDw197; Epstein-Barr virus-induced G-protein coupled receptor 1; EBI1; EBV-induced G-protein coupled receptor 1; MIP-3 beta receptor; CD antigen CD19
遺伝子 ID	1236.0
SwissProt ID	P32248
免疫原	抗血清はヒト CCR7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 170-219

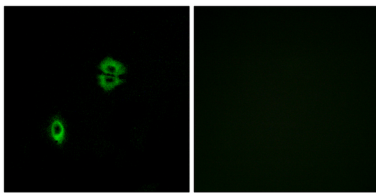
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Gタンパク質共役受容体ファミリーのメンバーである。この受容体は、エプスタイン・バーウイルス（EBV）によって誘導される遺伝子として同定され、Bリンパ球に対するEBVの作用のメディエーターであると考えられている。この受容体は様々なリンパ組織で発現し、Bリンパ球およびTリンパ球を活性化する。炎症組織へのメモリーT細胞の遊走を制御し、樹状細胞の成熟を促進することが示されている。ケモカイン（C-Cモチーフ）リガンド19（CCL19/ECL）は、この受容体の特異的リガンドであることが報告されている。この受容体によって媒介されるシグナルは、リンパ節におけるT細胞の恒常性を制御し、T細胞の活性化と分極、そして慢性炎症の病態形成にも機能している可能性がある。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq提供、2014年9月]、機能: MIP-3 β ケモカインの受容体。EBVがBリンパ球に及ぼす影響、または正常なリンパ球の機能の媒介因子である可能性あり。誘導:EBVによる。オンライン情報:CCケモカイン受容体エントリ、類似性:Gタンパク質結合受容体1ファミリーに属する。組織特異性:さまざまなリンパ組織および活性化Bリンパ球およびTリンパ球で発現し、エプスタイン・バーウイルスに感染したB細胞およびヘルペスウイルス6型または7型に感染したT細胞で強くアップレギュレーションされる。、

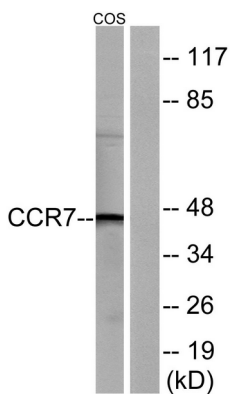
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;ケモカイン;

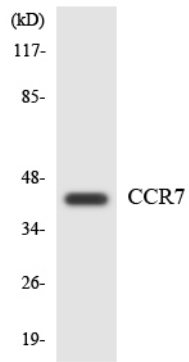
画像データ



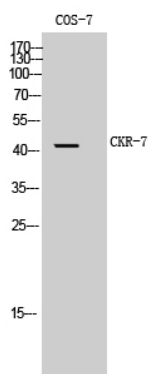
CCR7抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CCR7抗体を用いたCOS7細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CCR7 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CKR-7 ポリクローナル抗体を用いた COS-7 細胞のウェスタンブロット解析